

いたばしNo.1 実現プラン 2025

重点戦略 I SDGs戦略



次世代の安心安全へ 防災対策をアップデート！

事業概要

地域防災計画

関係機関とその有する全ての機能を有効に発揮し、区の地域における災害に係る予防対策、応急・復旧対策及び復興対策を講じ、区の地域と区民の生命、身体及び財産を災害から保護することを目的とした計画。

令和 6 年 3 月末に改定予定で、区が主体的・能動的に講ずる防災対策を中心とした記載となっており、タイムラインの視点を取り入れた構成となっている。

「万全な備えの安心・安全」のために

区では、地域防災計画を基に、区民の命や生活環境を守るため、最適な防災対策のあり方を継続的に検討し、対応してきました。防災対策の基本となる三助「自助・共助・公助」、それぞれを更に実効性の高いものにするべく、各種取組を進めています。

これまでの取組に加え、自助・共助の要となる地区別マニュアルの改定や、防災予防・応急・復旧対策等に取り組んでいきます。

また、「板橋区かわまちづくり計画」においては、既に進めている緊急一時退避場所の整備に加え、令和 6 年度以降は荒川河川敷をブランド化し、にぎわいを創出する水辺空間形成のための基本計画を策定します。

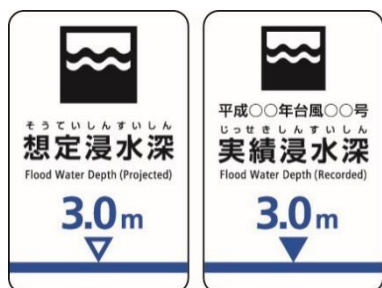
事業の内容

地区別防災マニュアル

平成 25～27 年度にかけ、区内全 18 地区の住民が地域の特性に応じてそれぞれの地震対策をまとめて作成したもの。地域のデータを踏まえ、カスタマイズされたマニュアルと地域の避難所等が示された防災マップにより構成されている。

地区別防災マニュアルの改定

策定から 10 年経過した各地区の地震対策をまとめた同マニュアルについて、3 か年かけて地区による改定作業の支援を行います。年 4 回程度のワークショップを開催するとともに、浸水リスクの高い地区は水害対策としての「コミュニティタイムライン」の考え方を導入することで、実効性を高めていきます。



浸水深表示イメージ

災害種別図記号による避難所看板および浸水深表示の設置

全国統一基準によるピクトグラムを使用して、小中学校等の避難所に旅行者や外国人等にも分かりやすい看板を設置します。また、国土交通省「まるごとまちごとハザードマップ」の取組や住民要望を勘案し、新河岸・舟渡・高島平・蓮根地区の電柱及び区立施設への浸水深表示を 3 か年かけて設置します。

大規模物流施設における災害物資拠点整備および防災備蓄物資等の管理

災害時の物資保管・配送拠点となる約 1,000 m²の施設周辺環境整備を行うとともに、区内備蓄倉庫（77 か所）等の物資管理業務について、物流システムを用いた、支援物資の効率的な管理、実効性のある防災体制構築に向けた業務委託を行います。

【施設予定地】

MFLP・LOGIFRONT東京板橋（舟渡四丁目 3 番）

まるごとまちごとハザードマップ

居住地域の水害の危険性を実感できるよう、居住地域をまるごとハザードマップと見立て、生活する“まちなか”に、水防災にかかわる浸水深の情報や避難所や避難誘導といった避難行動に関する情報を標示する取組。

“まちなか”に表示することで、日常から水防災への意識を高め、発災時には、住民の主体的な避難行動による、被害の最小化をめざします。

予算

75,950 千円

(内訳)

地区別防災マニュアルの改訂	32,527 千円
避難所看板、浸水深表示の設置	12,849 千円
災害物資拠点整備、防災備蓄物資等の管理	30,574 千円

主管課・問い合わせ先

危機管理部 防災危機管理課 (避難所看板・浸水深表示、拠点整備・備蓄物資等管理)

課長 荒張 寿典 TEL3579-2112

危機管理部 地域防災支援課 (地区別マニュアル、かわまちづくり基本構想)

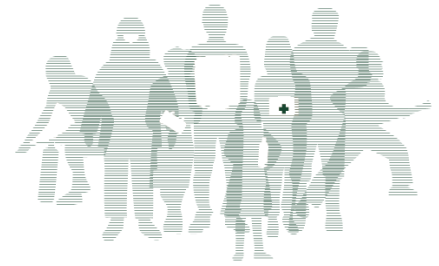
課長 牧 修造 TEL3579-2150

実施の背景・目的

持続可能なまちづくりを推進

首都直下地震や大規模風水害は、いつ発生してもおかしくない状況にあり、板橋区でも全国的な災害の教訓を糧に、毎年対策を進化させてきました。

激甚化する災害への新たな対応策や法改正等を踏まえ、より実効性を高めるため、板橋区地域防災計画を適宜見直し、SDGs の視点から、災害に強く誰もが住み続けられるまちづくりを進めるとともに、板橋区の強みである高い地域住民力との相乗効果により、誰ひとり取り残さない防災対策を実現していきます。



板橋区地域防災計画

今後のスケジュール

地区別防災マニュアルの改訂

令和 6 年度～令和 8 年度 各年 6 地区

災害種別図記号による避難所看板および浸水深表示の設置

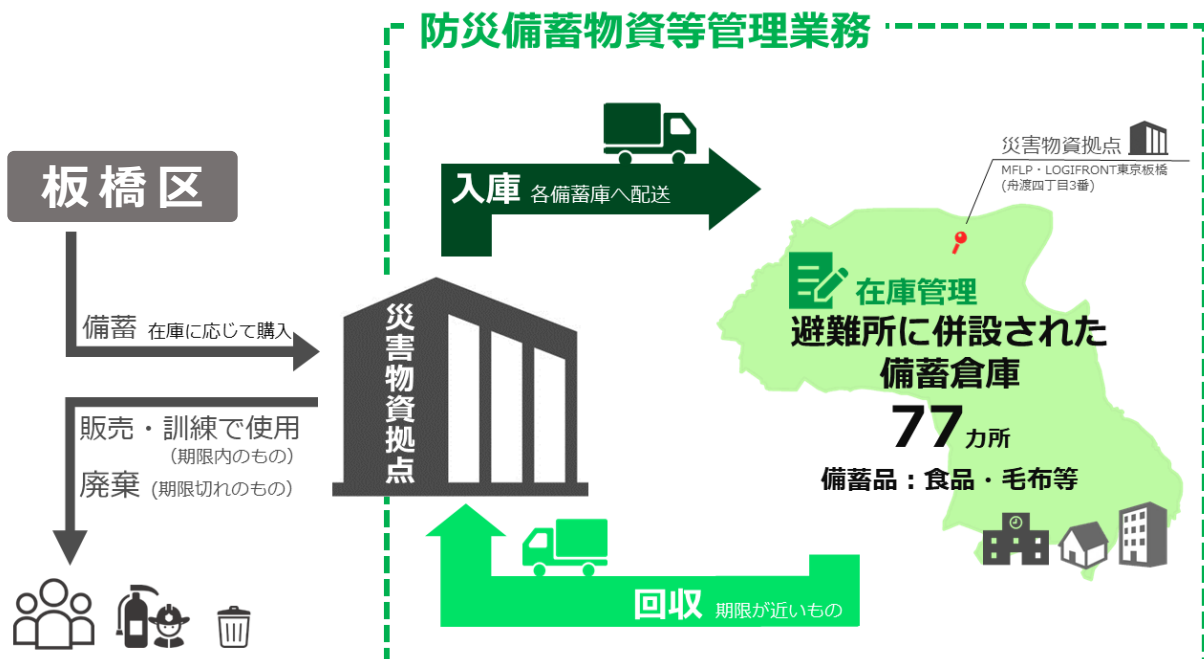
令和 6 年 10 月～11 月 避難所看板の設置 87 カ所

令和 6 年度～令和 8 年度 浸水深表示の設置 約 190 カ所

大規模物流施設における災害物資拠点整備および防災備蓄物資等の管理

令和 6 年 9 月～ 災害物資拠点整備

令和 6 年 10 月 物資管理業務委託開始



中学生の新たな活動の場・居場所づくりをめざした部活動改革

事業概要

いたばし地域クラブ

中学校の部活動に替わる新しい活動の場となることをめざした、スポーツ、文化芸術分野の地域クラブ活動。現在、女子サッカー、eスポーツ、科学技術(ロボット数学)の3クラブが活動中。

中学校部活動を学校教育から社会教育へ

区では、少子化や部活動顧問業務等による教員の負担増などにより、持続可能性の面で厳しさを増している区立中学校の部活動を学校教育から社会教育分野へ地域移行し、生涯スポーツ活動・生涯学習活動とする新たな仕組の構築をめざしています。

令和6年度は、この取組を推進するため、行政が運営団体となる「いたばし地域クラブ」の本格実施や学校活動における教員に頼らない指導体制の構築、部活動の地域移行に向けた関係者との協議に取り組んでいきます。

事業の内容



科学技術(ロボット数学)クラブ活動の様子

いたばし地域クラブアカデミー

いたばし地域クラブ会員のための座学による基礎的共通講座を開催予定。放課後の過ごし方やトレーニング理論など、地域クラブ活動に主体的に参加できるようになることや社会を生き抜く力を得られるような知見を広げる内容を予定。

部活動指導員の配置

区立中学校全22校に2名ずつの配置を想定。

(1)いたばし地域クラブの本格実施等

将来的な地域移行に向けて、令和5年度より実践研究モデルとして立ち上げた「いたばし地域クラブ」の3クラブを正式なクラブとして位置づけるとともに、「サイエンスクラブ(仮称)」を新設します。

サイエンスクラブでは、区立教育科学館での科学実験や、同館内ブースの企画・運営、自主研究活動を行います。また、いたばし地域クラブ会員の共通講座として、「いたばし地域クラブアカデミー」を開催します。

(2)区立中学校部活動指導員配置事業の拡大

現在、モデル配置している部活動指導員3名を44名に拡大します。生徒がより専門的な指導を受けられることや、日頃の指導・大会への引率など教員の負担を軽減する効果が期待できます。

(3)地域移行シンポジウムの開催

スポーツ、文化芸術分野の関係者、保護者や教員等の地域移行に関係するすべての人を対象としたシンポジウムを開催し、パネルディスカッションや熟議を通じて、学校部活動の地域移行について共通理解を深めていきます。

予算

108,565 千円

(内訳)

いたばし地域クラブの本格実施等	6,618 千円
区立中学校部活動指導員配置事業	101,620 千円
地域移行シンポジウムの開催	327 千円

主管課・問い合わせ先

教育委員会事務局教育総務課(地域クラブ・地域移行シンポジウム)
課長 諸橋 達昭 TEL3579-2601
教育委員会事務局指導室(部活動指導員の配置)
室長 氣田 眞由美 TEL3579-2640

実施の背景・目的

すべての中学生が輝く未来に向けて

区内の生徒数は、ピーク時と比較するとおよそ半数を切っています。板橋区においても少子化の影響が、中学校の小規模化や部活動の種目・分野の減少といった課題として顕在化してきています。

一方、教員は部活動の顧問を任されることによる長時間労働の発生や、経験のない種目・分野への指導を求められるなど、教員にとって過大な心身と業務への負担となっている実態もあります。

区では、これらの課題を中長期的な視点に立ち、関係者と協力しながら、中学生の貴重な時間をより有意義なものにし、スポーツ社会、生涯学習社会の進展につなげていきます。



今後のスケジュール

◆板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン 2030

令和6年3月策定

令和6年4月施行

(1)いたばし地域クラブの本格実施(地域移行事業)

令和6年4月以降 アカデミー講座(年3回)

令和6年5月 「サイエンスクラブ(仮称)」の活動開始

(2)区立中学校部活動指導員配置事業(地域連携事業)

令和6年4月 増員配置

(3)地域移行シンポジウムの開催

令和6年4月以降 年9回



産まれる前から切れ目なく～子育て支援施策～

事業概要



産前から切れ目のない支援で子育てをサポート

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を強化するため、産前・産後に利用できるサービスを拡充し、育児の負担を軽減することで、子育てがしやすい環境を実現します。

また、育児に関する不安や悩みを相談できる環境を整え、早期に必要な支援につなげることで、虐待の未然防止を図るとともに、すべての子どもたちの健やかな生育をサポートします。

事業の内容



産前産後支援事業の導入

養育者の負担軽減・育児不安解消のため、既存の子育てサポート事業に加え、妊娠中もしくは、生後6か月未満の乳児と同居する養育者の元に、専門的な資格を持つ「産後ドゥーラ」が訪問する「産前産後支援事業」を導入し、家事や育児の援助、相談対応を行います。

【自己負担額】1,300円/時間

※非課税世帯半額、生活保護世帯免除

産後ドゥーラ

一般社団法人ドゥーラ協会に認定を受けた資格者で、家事や育児など様々なサポートをする専門家。

産後ケア事業の充実

出産後において心身の不調又は育児不安がある等、育児支援を必要とする母子に対し、従来の「訪問型産後ケア」、「宿泊型産後ケア」に加え、日帰り利用できる「通所型産後ケア」を新たに開始します。さらに、「宿泊型産後ケア」の自己負担額を軽減するとともに、利用日数も拡大します。

【通所型産後ケアの導入】

利用上限7回、自己負担額2,000円/回

【宿泊型産後ケアの拡充】

利用日数を4泊5日から6泊7日に拡大

自己負担額を5,000円/日から4,000円/日に軽減

※どちらも非課税・生活保護世帯は自己負担なし

※どちらも区が契約する医療機関等の施設で実施

産後ケア

助産師等の医療専門職が中心となり、身体的回復と心理的な安定を促進するとともに、セルフケア能力を育み母子とその家族が、健やかな育児ができるよう支援する事業。

予算

71,674 千円

(内訳)

産前産後支援事業

8,150 千円

産後ケア事業(宿泊型、通所型、訪問型) 63,524 千円

主管課・問い合わせ先

子ども家庭部 支援課(産前産後支援事業)

課長 清水 正隆 TEL5944-2371

健康生きがい部 健康推進課(産後ケア事業)

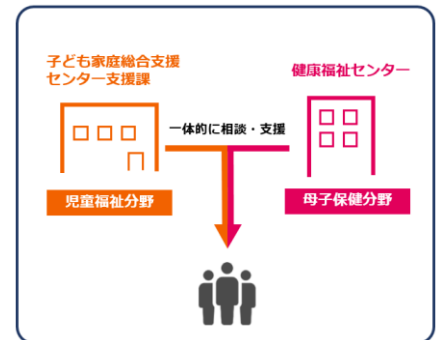
課長 折原 孝 TEL3579-2310

実施の背景・目的

子どもたちの成長を共に支えるまちをめざして

核家族化や共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化などにより、子育て家庭は孤立しやすい上に、妊娠中から産後しばらくの間は、ホルモンバランスの乱れ、環境の変化やストレスなどで心身のバランスを崩しやすいとされています。妊産婦が特に心身のケアやサポートを必要とする時期のサービスを拡充することで、母子やその家族が健やかな育児ができるよう支援します。

また、その後も切れ目のない支援を強化するため、改正児童福祉法により、令和6年4月から努力義務とされる「こども家庭センター」の機能をいち早く展開します。妊産婦や乳幼児家庭の支援を担う健康福祉センターと子育てに困難を抱える家庭等の支援を担う子ども家庭総合支援センターが、一体的に相談・支援を行う体制を整備し、必要な支援につなげることで、次世代の社会を担う子どもを健やかに生み育てることができ、子育てのしやすさが定住を生むまちの実現を図ります。

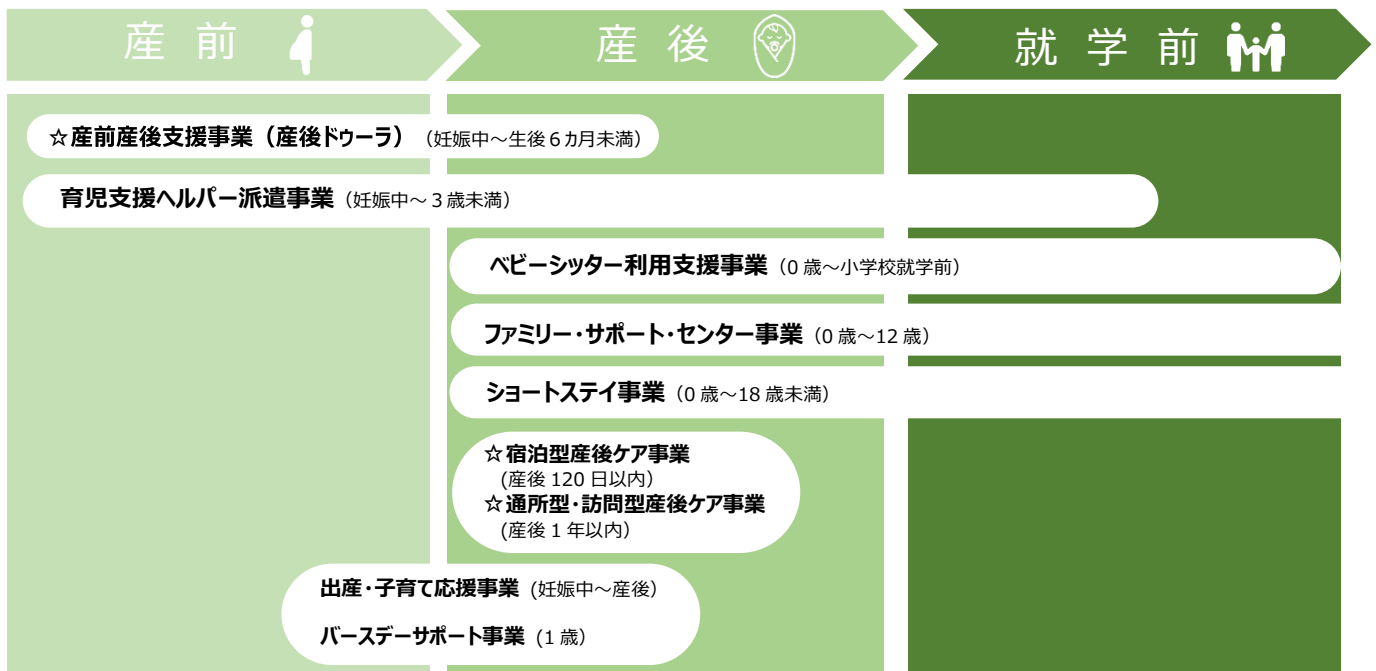


母子保健分野と児童福祉分野の一体的な相談支援体制を構築

今後のスケジュール

令和6年4月 産前産後支援事業、産後ケア事業(拡充・新規)開始

主な子育て支援事業 (☆令和6年度新規・拡充事業)



親身に寄り添いサポート！子ども・若者支援強化

事業概要



子どもが安心して暮らし、活躍できるように

近年、子どもや若者を取り巻く環境の変化による社会問題の深刻化が大きな課題となっています。

区では、次代を担うすべての子どもや若者が健やかに成長し、自立・活躍できるよう地域社会と協力し支援に取り組んでいます。

令和6年度は、これまでの取組に加え、将来に不安を抱える子どもや若者へ、より親身に寄り添い、自立に向けた不安の軽減に向け、ケアリーバーやヤングケアラーの支援に取り組んでいきます。

事業の内容

社会的養護経験者(ケアリーバー)

児童養護施設等で社会的な養育を経験した者。生活環境が整わないまま18歳で自立することが求められるため、自立後は貧困や孤独に陥りやすい傾向がある。

社会的養護経験者(ケアリーバー)応援プロジェクト

自立に向けて抱える貧困や孤独等の不安を軽減するために、寄附金を活用して、支度金や家賃、医療費補助といった「経済的支援」と、信頼関係を築きつながりを確保する「相談支援」の両輪で支援を行う。

寄附金受付窓口

- ① ふるさとチョイス
- ② 区役所経営改革推進課窓口

ヤングケアラー

一般的に「本来大人が担うとされているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」を指し、年齢等に見合わない重い責任や負担を負うことで、学業や友人関係に影響が出るなど子どもの権利が侵害されている可能性があることが問題となっている。

ヤングケアラー・アドバイザー業務内容

- ① 関係機関からの相談への助言
- ② 関係機関間の関係構築・地域資源の開発
- ③ 区が実施するヤングケアラー施策に対する監修
- ④ 関係機関向け研修の実施
- ⑤ 必要に応じてヤングケアラー本人・家族への対応

社会的養護経験者(ケアリーバー)応援プロジェクト相談支援の拡充
社会的養護経験者(ケアリーバー)が自立を前に抱える悩みや不安を払しょくするうえで、自立後も居場所や人とのつながりを継続的なものにしていく必要があります。これまでの取組に加え、関係機関や若者同士のつながれる仕組みづくりを進めます。

【拡充内容】

- ①居場所事業：月4回(小規模開催)および年4回(大規模開催)
- ②自立前施設等訪問事業：月4回
- ③なんでも相談：同行支援等

ヤングケアラー支援体制の強化

ヤングケアラーの背景には福祉・教育・医療などの様々な原因があり、行政のみならず、様々な関係機関が連携して支援する必要があります。

そのため、新たにヤングケアラー専門のアドバイザーを設置し、関係機関のサポートや関係機関同士のスムーズな連携体制づくりを進めます。

また、動画やチラシを作成し、周囲から気づかれにくく自覚を持ちにくいヤングケアラーへの周知・啓発を行っています。

予算

18,849 千円

(内訳)

社会的養護経験者（ケアリーバー）応援プロジェクト相談支援拡充 9,531 千円
 ヤングケアラー支援 9,318 千円

主管課・問い合わせ先

子ども家庭部 子ども政策課

課長 丸山 博史 TEL3579-2471

(ケアリーバー) 担当者 柳館 雄太 TEL3579-2471

(ヤングケアラー) 担当者 茂呂 恵 TEL3579-2471

実施の背景・目的

光り輝く次の世代のために

社会の目まぐるしい変化により、様々な困難や新たな課題に対応できずにいる子ども・若者が増え、ひきこもりや若年無業者（ニート）など、若者の自立をめぐる問題が複雑化しています。また、貧困、児童虐待、いじめ、不登校など、子どもや若者に関わる問題も深刻化しています。

区では、あらゆる子どもが取り残されることのないよう切れ目のない支援に取り組み、複雑な課題を抱える家庭や生活基盤への不安を取り払い、未来を担う子どもたちの『社会的自立と活躍』の実現に向け、これまで以上に迅速かつ適切に、課題への対応・解消に取り組んでいきます。

板橋区ヤングケアラーに関する

実態調査結果抜粋（令和5年度調査）

小中学生や高校生、教員やスクールソーシャルワーカー等の関係機関およそ38,000人を対象に調査。

家族の世話をしている子どもの割合は、国の調査結果と同様か、やや高い数値（5.3%～9.9%）が見られた。また、世話をしている子の世代が上がるにつれ、生活や将来などに不安を抱えている割合が増える傾向が見られた。

関係機関では、ヤングケアラーと思われる子どもの実態把握に課題があることが分かった。

今後のスケジュール

事業	開始時期	内容
社会的養護経験者（ケアリーバー）応援プロジェクト		
経済的支援	令和5年4月	対象者：区内児童養護施設卒園者（区内里親委託解除者）及び区児童相談所で措置し、自立を前提に措置が解除された方 経済的支援を受ける場合、区が委託をする事業者等の相談支援を受けることが条件 ◆ 措置解除支度金 上限20万円（一時金） ◆ 家賃補助 家賃月額1/2（上限3万円）対象期間：措置解除後6年間 ◆ 医療費補助 年間上限2万4千円（月額2千円相当）対象期間：措置解除後6年間 ※ 家賃補助：東京都等の住居支援を受けた者は、その支援を受けた期間を差し引いた期間を補助。
相談支援（拡充）	令和6年4月	◆ 自立前施設等訪問事業 自立予定の児童がいる児童養護施設等を定期訪問し、関係の強化を図る。 月2回 → 月4回 ◆ 居場所事業 区施設又は委託事業者の拠点等で、定期的に集まれる居場所を提供し、多様な関係者との交流を図る。 月1回 → 月4回（小規模：委託事業者拠点等）+年4回（大規模：区施設） ◆ なんでも相談 メールやLINE等による相談を随時受付。経済的支援に係る申請・報告書類の作成補助や手続きや通院等への同行。
寄附の受付	令和5年4月	事業実施のための寄附金を募り、財源に充てる。
ヤングケアラー支援		
アドバイザーの配置	令和6年4月	関係機関への相談対応、意識啓発、連絡体制づくりを行い、ヤングケアラーの早期発見、速やかな支援に結びつける。 配置人数：2名
啓発動画・チラシの配布	令和6年9月	小学生向け、中高生向けの5分程度の動画およびチラシを作成。 動画は、区HPやYouTube区公式チャンネルで公開するほか、全小中学校で配付されているタブレットでも閲覧可能にする。 チラシは、区内小中高等学校へ配付する。

啓発から実践へ～SDGs ローカライズプロジェクト～

事業概要



板橋区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

SDGs を自分ごととして捉え、目標をもって行動

令和 4 年に「SDGs 未来都市」に選定されたことを契機に、広く区民・企業等が SDGs を自分ごととして捉え、学び、目標をもって行動する「ローカライズ」を推進しています。令和 6 年 3 月完成予定の板橋のまちを舞台にしたオリジナルのすごろく型ゲーム及び啓発リーフレット「いたばしさんぼ」の普及促進や、区や企業・団体のパートナーシップを深め、各々の課題を相互の協力連携により解決をめざす専用ポータルサイト「SDGs プラットフォーム」の立ち上げを行います。

事業の内容



「いたばしさんぼ」駒イメージデザインは、区ともゆかりのある、絵本作家の三浦太郎氏によるもの。

「いたばしさんぼ」の普及促進

令和 6 年 3 月に完成予定の板橋のまちが舞台のボードゲーム「いたばしさんぼ」を区内の小・中学校等での活用を促していきます。楽しみながら日常生活における SDGs の視点に気づき、自ら行動に移すきっかけづくりとすることを目的としています。

また、区内イベントへの出展などを通し、このゲームの普及促進を行うとともに、ゲームが印刷された啓発リーフレットを広く配布することで、更なる SDGs の意識を啓発していきます。

「SDGs プラットフォーム」の構築

SDGs 達成に向けた取組を実践している企業・団体等を「板橋区 SDGs パートナー」として認定し、「SDGs プラットフォーム」ポータルサイト上で取組の情報発信を行えるようにしていきます。

また、区内の SDGs に関する区民の「知りたい」情報を企画・取材し、特集記事を作成するとともに、WEB マーケティング手法によりサイトへの導線設計を行い、高いアクセス数を確保し、普及を推進していきます。

併せて、すでに様々な企業・団体との連携があり、複数の SDGs 目標に関係している「絵本のまち板橋」事業を通じた交流会を実施し、そのネットワークを拡大させ、「絵本・絵本文化」×「SDGs」の新しい展開が生まれることをめざします。



「いたばしさんぼ」盤面イメージ
板橋にあるスポットがちりばめられており、お気に入りや知っている場所を見つけながらプレイすることができる。

予算

22,462 千円

(内訳)

「いたばしさんぽ」普及促進・リーフレット印刷 2,772 千円
ポータルサイト構築運営保守 19,690 千円

主管課・問い合わせ先

政策経営部 ブランド戦略担当課

課長 阿部 雄司 Tel.3579-2047

担当者 石川 努 Tel.3579-2515

実施の背景・目的

未来志向の持続可能なまちづくりを推進

区では、令和4年5月に国から「SDGs 未来都市」に認定されました。これを契機とし「SDGs ローカライズプロジェクト」をスタートさせました。区民・企業等における日頃の取組にフォーカスし、各主体が相互に情報共有や連携・協力する機会を創出しながら、SDGsの普及促進や課題解決を図ることによって、新たな価値を生み出していきます。

SDGsの理念を通じ、どこでも身近に、誰でもわかりやすく理解できる「絵本」文化が根ざす「絵本のまち板橋」を軸に、交流とにぎわい・子育てしやすい環境を創出することによって、若い世代の定住化促進と、いつまでも元気に活躍し、学びと緑豊かな環境を創造しながら未来へ継承し続けるまちの実現に向けた取組を展開するとともに、新しい技術や価値を取り入れながら、SDGsのめざす未来志向の持続可能なまちづくりを推進していきます。



SDGs 未来都市認定証授与式の様子
(内閣府より提供)

今後のスケジュール

「いたばしさんぽ」の普及促進

令和6年 3月 教材・リーフレットの配布開始
令和6年 4月から順次 リーフレット普及促進の実施

「SDGsプラットフォーム」の構築

令和6年 6月 説明会・プレエントリーの開始
令和6年 10月 ポータルサイトのオープン
令和7年 1月 表彰制度のスタート

SDGsプラットフォーム

区内のSDGsに関する情報が集まるポータルサイト

企業・団体等

- ▶ SDGsパートナー認定制度
・パートナー企業・団体等によるSDGsに関する取組の紹介
- ▶ オープンな交流ができる掲示板の設置
- ▶ 「絵本のまち板橋」をテーマにした交流会の開催
- ▶ 新たな価値を共創する対話型窓口「公民連携デスク」の設置



区民

- ▶ 区内のSDGs取組の紹介
・パートナー企業・団体等によるSDGs取組紹介
- ・区内のSDGs情報を企画・取材した特集記事の掲載
- ・サイトにアクセスする導線設計 (WEBマーケティング)



>> 区内へのローカライズの浸透・地域活性化 <<